

科目名	メディア心理学Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	ポジティブメディア心理学	講義	
担当者	栗田 聡子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

①社会のwell-being(幸福や福祉)の概念を理解し、メディア心理学の新たな分野である「ポジティブメディア心理学」が台頭してきた理由と重要性を理解できる。②メディア業界のプロフェッショナルが培ってきた課題解決のための発想の仕方を理解することができる。③多様な興味を持つメンバーで構成されたグループと意見を出しながら、積極的に発表準備に取り組むことができる。④他者に対してわかりやすく説得力のある方法で伝えることができる。

[授業概要]

メディア心理学Ⅱでは、「メディアを利用してどのように社会や個人のwell-beingに貢献できるのか」について思考する力を養います。授業は①講義 ②メディア業界のプロフェッショナルによる特別講義 ③グループ発表で構成されます。②では、メディア業界のプロがどのように課題解決に従事してきたかについて学び、指導を受けます。その知識をもとに③グループ発表に取り組み、複数の視点を入れながら課題解決に挑戦します。(2回までは、Iでカバーできなかった内容を実施予定。教員は過去にテレビ番組の制作を経験していることから、その経験から得た知見も加えます。)

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

現実に起こっている国内外のメディア関連情報の意味を心理学の観点から考えながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業のテーマについて予習しておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. イントロダクション: シラバスの説明他
 2. ヴァーチャルリアリティ(仮想現実)の心理と倫理
 3. ポジティブメディア心理学①
 4. 学外特別講師①テレビ局アナウンサー(予定)
 5. ポジティブメディア心理学②
 6. ポジティブメディア心理学③
 7. ポジティブメディア心理学④
 8. 学外特別講師②コピーライター(予定)
 9. ポジティブメディア心理学⑤
 10. グループ発表準備
 11. グループ発表
 12. グループ発表
 13. まとめ
- *スケジュールは変更になる可能性があります。

科目名	メディア心理学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ポジティブメディア心理学	講義	
担当者	栗田 聡子		

[成績評価方法]

期末試験(40%)と課題(30%) グループ発表と授業態度(30%)を総合的に評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業時間内で解説するか、manabaかメール経由で送ります。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 心理2-2/ 修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。

成績評価方法: 総合的に評価

学科DP番号/DP内容: 心理3-3/ 修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。

成績評価方法: 総合的に評価

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 多様性理解/ 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価

教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 総合的に評価

[教科書(ISBN)]

『ポジティブメディア心理学入門—メディアで「幸せ」になるための科学的アプローチ』 著者名:アーサー・A・レイニーほか(著) 李 光鎬 ほか(監訳) 出版社:新曜社 (9784788518056)

[参考書(ISBN)]

随時紹介